

第1章 はじめに

●計画の前提

・本調査は、旧倭文中学校を活用した子ども屋内遊び場施設の整備に向け、事業の実現可能性を多角的に検討することを目的とする。
 近年の猛暑日の増加等により、天候に左右されず子どもが安心して過ごせる施設の必要性が高まる中、廃校ストックの有効活用と子育て環境の充実を同時に図ることが求められている。

●現状を取り巻く課題

・人口動態：市内の総人口および0～14歳の年少人口は、ともに今後一貫して減少していく見通し。
 ・気候状況：猛暑日が増加傾向にあり、屋外での活動が制限される日が増えている。
 ・子育て世代のニーズ：
 人口減少や少子化が進行する中、「子育ての喜びがみえるまち」を目指し、子育て世代に選ばれる地域づくりを進めていくことが重要。

第2章 基本的な整備方針

●コンセプト

～地域の絆を深める、子ども達が遊びを通じて学び、南あわじ市の未来を育む遊び場～

・「子育ての喜びが見えるまち」の実現を目指してを具現化する施設として整備する。
 ・単なる屋内遊び場として整備するのではなく、地域の住民にも運営に参加いただき、「地域の活性化」「世代間交流の場の創出」も可能な拠点として整備する。

●メインターゲット

・本施設を利用する範囲は基本的に未就学児から小学生とその保護者及び地域住民とする。
 ・施設の一面に「多世代交流ゾーン」をつくり、子供から大人、高齢者までもが利用できるようにする。
 ・「子育ての喜びが見えるまち」として本市の魅力を市外へも発信すべく市外者も対象とする。

●整備方針

- (1) 雨天、酷暑でも利用できる屋内型施設
- (2) 保護者も満足できる施設
- (3) 地域の住民とふれあい、多世代間交流できる施設
- (4) 地域資源が活用され、地域の振興に寄与する施設



第3章 施設配置計画 (市民ワークショップ意見)

●施設構成案

市民ワークショップにより示された導入機能を8つのカテゴリーに分類。
 右表は、各分類と具体的な機能。

分類	具体的な機能		
子ども・子育て機能	▶ 遊び・発達支援 こども遊び場 乳幼児遊び場 プレイルーム(0～3才) わんぱくエリア	▶ 学び・読書 絵本図書館 図書館・ブックストア 読み聞かせ室 学びのスペース 自習室	▶ 見守り 保護者の見守り・リラックススペース ゆつくり昼寝のできるスペース
交流・コミュニティ機能	交流場所/多目的ホール/多目的スペース/多目的エリア(中庭)/ホール/ワークスペース/会議室/シアタールーム/ストリートピアノ		
飲食・物販機能	▶ 飲食販売 カフェ(セルフ含む) キッチンカフェ レストラン・バイキング スイーツ 猫カフェ/サイクリングカフェ	▶ 物販機能 売店・出店コーナー ショップ レンタルBOXショップ 販売スペース	
スポーツ・アクティビティ機能	▶ 屋内 ボルダリングウォール/ボルダリング/スポーツジム/eスポーツルーム/eスポーツ交流場所/ダンス/フットサル/バスケットコート/アスレチック ▶ 屋外 テニスコート/スケボー/ジョギングコース/ドッグラン/釣り場		
文化・創作機能	▶ サウンド機能 音楽室/シアター/コンサート ▶ クラフト機能 加工場/工作DIY/DIY図工室・工房 ▶ 展示機能 地域史展示		
自然・農・体験機能	ビオトープ/農園/ヤギの飼育/天体観測(テントスペース) /バーベキュー場		
滞在・宿泊・生活機能	トレーラーハウス/住宅/温泉・足湯/休憩室		
管理・バックヤード機能	受付/給湯/事務室/バックオフィス/バックヤード/医務室/倉庫/備品置き場/駐車場/外部トイレ/エレベーター		

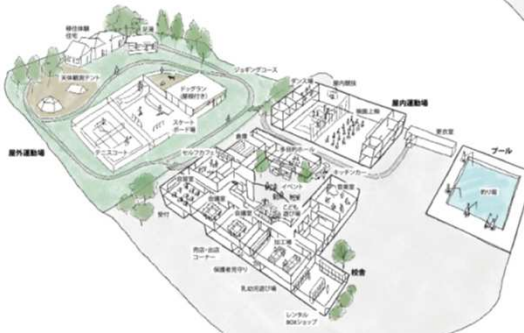
は倭文中学校児童による提案



倭文中学校ワークショップの様子



市民ワークショップの様子



第4章 施設計画

●施設の概況

・旧倭文中学校(南あわじ市倭文庄田)
 ・敷地面積 約17,000㎡
 ・校舎(H3建築)RC造2階建 延床面積1,964㎡
 ・体育館(H3建築)RC造2階建 延床面積1,030㎡
 ・プール、プール付属棟、部室棟

●施設の優位性

・中庭や吹抜の多目的フロアなど屋内遊び場への用途変更がイメージしやすい機能性・デザイン

●概算事業費及び維持管理運営費

初期整備費(約8.0億円～9.2億円)
 ・設計施工管理費：44,000千円 ～ 50,000千円
 ・施設改修費：722,000千円 ～ 828,000千円
 ・什器・備品費：37,000千円 ～ 42,000千円
 維持管理運営費(約47,000千円～57,000千円)
 ・人件費：28,000千円
 ・事務経費：16,000千円 ～ 24,000千円
 ・その他経費：3,340千円 ～ 4,800千円

※ワークショップで出された意見に基づいて試算したものであり、詳細仕様は考慮されていないため大きく変動する可能性がある。

第5章 管理運営計画

●想定来館者数の考え方

・想定来館者数：約37,000人～56,000人程度
 ※類似施設より試算

●開館日及び開館時間のイメージ

・「平日は地元利用、休日は広域利用を想定しておきたい」
 「平日と休日では利用者層が異なることを想定した運営が必要」とであると事業者ヒアリングで示唆。

第6章 運営手法

民間事業者のノウハウや運営能力を活用するため、イベント企画やサービス改善など民間の創意工夫を取り入れた運営が可能となり、施設の魅力向上や利用者満足度の向上が期待できる。「指定管理者制度」を適用することが適している。